

第3回 管理運営部会 市民参加事業について

9月14日、小田原市民会館大ホール舞台上にて、「芸術文化創造センター管理運営部会 第3回市民ワーキング」が行われました。市民メンバー12名、(女性5名、男性7名)、市の事務局スタッフ9名、その他の事務局スタッフ2名、専門委員会から井上委員の、合計24名が参加しました。市民ワーキング「第3回管理運営部会」の当日の様子や、皆さまから示されたご意見をご紹介します。

第3回管理運営部会概要 ～市民参加事業について～

- 事業や企画に参加する、「市民参加事業」について重点的に議論をおこないました。
- 井上委員から、厚木市文化会館で実施された市民参加事業「市民劇『リバーソング ～永遠のハックルベリィ・フィンたちへ～』」、間瀬担当課長から、逗子文化プラザホールで行われた「市民音楽劇 海は天才である!」について、当時のメイキング映像や舞台公演映像を交えての紹介がありました。
- その後2班に分かれ、市民参加の事業について、どのような方法や取組みが考えられるかを検討しました。
- 最後に各班の議論内容の発表を行い、全員で議論の内容を共有し、井上委員からコメントをいただきました。

『市民参加』とは・・・

- 「市民参加」には、「鑑賞への参加」「事業への参加(事業に参加する、事業を企画する)」「管理・運営への参加」「評価への参加」など様々な参加方法があります。その中でも最も大事な「市民参加」は「チケットを買って公演を観に行くこと」です。
- 市民参加事業といっても、チケット料金を取る以上は、きちんと観られる「作品」を創造しなくてはなりません。それには、市民の力だけではなくプロの力も必要です。プロは、市民が「鑑賞に値するものを創る」ためのお手伝いをします。
- 市民参加作品は、演目が同じであっても、出演者を変えて継続して公演を上演していくことが大切です。

～市民参加事業の紹介～

厚木市文化会館開館30周年記念公演

「音楽劇 リバーソング ～永遠のハックルベリィ・フィンたちへ～」

公演日：2008年9月6日(土)、7日(日)
作・演出：横内謙介(厚木市出身)
出演：オーディションで選ばれた市民163名 他
特別出演：榊原郁恵(厚木市出身) 小泉今日子(厚木市出身) 他
主催：財団法人厚木市文化振興財団
協力：厚木シアタープロジェクト市民応援団 ほか
入場者数：9月6日 1,253名、7日 1,259名 合計 2,512名(満席)

- 文化会館の30周年と、厚木市出身の作・演出家、横内謙介氏と組んで1999年にスタートした、「厚木シアタープロジェクト(ATP)」の10周年を記念して企画されました。
- オーディションで選ばれた6歳から70歳までの市民163名に加え、厚木市出身の有名人が出演し、市民と共演しました。
- 横内氏の母校である、厚木高校出身者を中心に「市民応援団」が結成され、広報、協賛金集め、舞台補助など、様々な協力を行いました。

逗子文化プラザホール開館5周年記念事業「市民音楽劇 海は天才である!」

公演日：2010年7月31日(土)、8月1日(日)
作：瀬戸口 郁
演出：西川信廣(文学座)
出演：オーディションで選ばれた市民キャスト38名
協力：市民サポートスタッフ
主催：逗子市芸術文化事業協会・逗子市教育委員会
助成：芸術文化振興基金

- 逗子文化プラザホールの開館5周年を記念して企画されたミュージカルです。ワークショップを含め約6ヶ月間にわたり稽古を行いました。
- 市民サポートスタッフが、衣裳・小道具制作、メイキング映像制作など、様々な協力を行いました。特に、メイキング映像制作は市民6名が稽古の初日から協力し、撮影・編集を行いました。

1班

～主な発表内容～

2020年 東京オリンピックを目指して

- オリンピック開会式への参加を目指して今から準備を始める。
- 小田原市は、東京から一番近い城があるまちである。何か、オリンピックと関連してできる事業があるのではないかと。そのためには、まずテレビなどへ出演し、知名度を高めていくことが必要。
- 甲冑など小田原の資源を活用する。
- 市民参加の舞台を上演する。市民が100名出演すれば、1000名の観客が動員できる。
- 創作のメインスタッフはプロがおこない、演出助手などの補助は地元の人がつとめ、市民と連携をとりやすくする。
- これらのことを目指すために、実現できるだけの予算確保ができるように頑張ってお働きかけていく。

井上委員からのコメント

- センターは、オリンピック開催の4年前にオープンしています。オリンピックにからめた市民プログラムが、何かしらできるのではないのでしょうか。スポーツに関わらない市民もオリンピックを目指して一緒に活動することで、市民参加を加速できると思います。
- 議論の中で「甲冑」というキーワードがでていましたが、そのように「小田原をイメージできるもの」を上手に組み込んだプログラムをつくれると、「小田原文化」となっていくのではないのでしょうか。
- テレビなど、マスコミと上手に連携をとりながら活動していくことが大切です。



2班

～主な発表内容～

無理はしない→たまにとんがる。リーダー(と市)は頑張る

- レストラン・カフェ・ショップの充実化、ぶらり散歩など、「センターで何もおこなわれていない時」にいかにか集客するかを考えた。
- 市民は「無理はしない」ように参加していく。けれども引つ張ってくれる人、市のリーダーは頑張らないと皆がついていかない。
- 子ども、若者、サポートする人たちに対する育成事業をしっかりと行っていく。
- 事業への評価をしなければ事業の継続は難しい。評価方法は意見が分かれたが、評価が必要ということは一致した意見。
- 継続できるシステムを構築するために、横の繋がり、連携が必要。
- センターとして、情報を集積する場所が必要となる。

井上委員からのコメント

- お城に来た人が気軽にセンターに寄れる仕掛けは良いと思います。
- ミュージアムショップには、おしゃれなものが並び、「ここにくると良いものが揃う」という品揃えにすることが大切です。
- 観賞にたえるステージを創るには、市民だけでなくプロの力が必要となってきます。市民の皆さまが、「プロの力が必要」という考えを持たれていることが素晴らしく、レベルの高い議論をしていると感じました。
- 市民が評価へ参加していくことは良いと思います。ただし、人気投票ではなくきちんと評価する必要があります。それにもプロの力が必要となってきます。



皆さまのご意見（ワークシートのふせん内容）を全て掲載します

※ご意見は基本的にワークシートのとおり掲載していますが、適宜誤字・脱字の修正を行っています。

1 班

- 創作が可能な運営ルールにする
- 管理：建物の維持管理に関わる
- 管理にたずさわらる場合：人の管理、予算の管理、記録の管理
- 運営にたずさわらる場合：イベントの企画、料金の設定、時間の設定
- 自分が出る場合：ステージに上がって参加する。（音楽、演劇、講演など）、絵、彫刻、写真などを出品する
- 観賞の場合：積極的に近所の人を誘って観に来る
- 裏方にたずさわらる場合：ステージの大道具、小道具など
- 新しい人や団体が参加しやすい組織作りをする！
- 予算決め、予算の確保
- 100 人の出演者に 1000 人の観客
- 新しいセンターを周りに広める宣伝をする、新しいイベントがあれば宣伝する
- 商店街との連携、チケットも持っていくとドリンクサービスが受けられる
- タダのボランティアはなし。ギャラは発生
- 主催者の自主事業だからと、スタジオなどを継続して借りれる
- 文化予算を確保しないと創作できない
- 市民応援団を作る！
- スタッフ（照明＆音響）の育成
- 市民が文化情報を発信し、それを市民が受信し、行ってみたいという情報の流れをつくる
- オリンピック会場から一番近いお城
- 地域の文化的素材を活用して脚本を作るワークショップ
- 総合芸術としてのオペラ、ミュージカルを市民が総合的に参加して創る
- すべてが集約されているミュージカルが市民全員が色んな形で参加できるのでは
- ゾウの梅子のストーリー
- 美術・文化などに普段関わっている人が体験できる様な企画
- ミュージカルは生オケで、小田原フィルとジュニア管弦で
- 演技、歌、ダンスなどの WS（舞台を創るため）
- 演出家はプロを。助手は地元の芝居をやっている人たち！
- 24 時間 TV
- オリンピックの開会式を目指して芸術性を高める
- 甲冑を着て北条ダンス
- マーラーの千人の交響曲を記念イベントとして実施（オケもアマチュアで）
- 北条の時代と現在がタイムスリップしたミュージカル
- オペラをやる
- こけら落としに向けて準備をする
- 北原白秋 音楽劇？ミュージカル？オペラ？
- 障がい者も参加できるものとし、参加。障がい者がいない時などは招待参加してもらうなど、ともに生きる社会作りを積極的に出来るといいな。
- アーティストの作品の写真を紹介しながら、そのアーティストの制作のこと、楽しいこと、難しいこと…いろいろなことを聞く、また、語り合うことによりアートを楽しむと深さを知ることができる。作家と参加者の距離は短めが良いと思う！

2 班

- 【事業】
- 団体間のコラボした企画をふやす
- 団体の枠にとらわれず
- 小田原の「絵」コンテスト プロとか素人とか関係無しにテーマを小田原に絞った絵のコンテスト
- 写生のコンセプトコンテスト 全国応募
- 市民ミュージカルへの市民参加
- 祭的なイベントとしての大会
- ガンダム興し ・ジオラマ展(公募) ・ガンプラ講座(参加) ・映画 ・コスプレ
- 子供も大人も巻き込んでまずひとつ始める！
- 子どもファッションショー、市民に呼びかける、プロ、市民代表評価
- 大道具、衣裳制作への応援

【情報】

- 小田原の歴史文化の案内ボランティア(センターにコーナーつくる)
- メディアの活用、小田原出身のメディア(新聞テレビ業界)関係者を組織する
- 林業再生のシンポジウムや学会を小田原で開催。大ホール、スタジオを活用
- 小田原文化活動情報 BOX、全ての情報を集約する場をつくり交替で常駐する
- 国際学会(学生のボランティア)+温泉
- ぶらり参加
- イベントが無いときに寄れるホール(集う)
- 囲碁将棋部
- カフェ・レストランの充実。十分席を設ける
- センターへとにかく遊びにブラリと行く
- レストランの充実
- ショップ。他では買えない、例えば箱根細工を活かして

【評価】

- ネガティブなものだけでなくポジティブなもので評価
- パフォーマンス評価(主催事業?)に対して一律した評価投票制度を作り、年間投票を集計する
- 評価がプラス面、マイナス面、フィードバックできるシステムにすること
- 小田原市文化表彰制度:新ホールのタイミングに合わせ、各々のジャンル枚に市民委員と専門家審査を行う→小田原市内の全ての活動→公募制
- 運営委員会の市民代表として活動評価を意見する
- 市民文化活動の評価 音楽(ポップ、クラシックに区分)、演劇、アート、その他の分科会を作り、各々の活動評価を行う。対象を主催事業に限るかどうかは要検討

【その他】

- 補助金の使い方
- 各々のパフォーマンスの小田原在住プロ、小田原出身者のプロをリストアップして組織化する
- 補助金のあり方、使い方が限定されすぎないこと
- 支援グループ
- 小田原パフォーマンスサポートグループ 音楽、演劇、アートなど、全てホールに関する活動をサポートするグループ(年会費制)
- 若手のアーティストなどに住んでもらう。免税などでトキワ荘的な
- 家や稽古場の助成、工房等
- ボランティアでは続かない(無料は駄目)
- 子どもに関わるイベントで、ぬいぐるみで参加。
- ディズニーランド、ディズニーシーなど
- 小田原在住のプロ、専門家の発掘
- 市民組織の形…芸術監督、合同委員会があり、その下に、「施設管理補助部会」「文化情報運営委員会」「評論・評価部会」「文化団体調整委員会」「公演企画部会」「公演サポート部会」「観賞部会」などの様々な部会がある。また、「行政-専門委員会-市民委員会-市民ワーキング-行動部隊」と繋がる。
- 市民参加の公演について。公演には、施設管理、経営、プロデュース、内容創造、舞台づくり、演出、舞台技術、出演、広報、観賞、評価・評論など、様々な関わりがある。そのそれぞれで、プロと市民が関わっていく。ただし、項目によって、プロと市民がそれぞれ担当する比重が違ってくる。

今後のワーキング予定 ～管理運営実施計画策定までの流れ～

日時	概要
第1回*終了 7月20日	【管理運営】事業と市民参加1 ～自主事業について～ *主に展示系の事業について
第2回*終了 8月17日	【管理運営】事業と市民参加2 ～自主事業について～ *主に舞台系の事業について
8月26日 *終了	フィールドワーク *厚木舞台アカデミー(子どもたちによるミュージカル)稽古見学
9月10日 *終了	第2回 整備推進委員会 管理運営分科会 *ワーキング1.2のまとめ
9月14日 *終了	フィールドワーク *小田原市民会館大ホール、舞台周りの視察
第3回 9月14日 *終了	【管理運営】事業と市民参加3 ～市民参加創作事業について～ *小田原市でどのような市民参加事業が求められているか
第4回 10月19日	【管理運営】事業と市民参加4 ～運営への市民参加について～ *運営や市民参加事業に、市民中間支援団体がどのように関わるか
10月21日	第3回 整備推進委員会 管理運営分科会 *ワーキング3.4のまとめ
第5回 11月9日	【管理運営】管理運営ルール1 ～施設の管理運営ルール～ *予約方法や優先利用、減免の考え方について
第6回 11月23日	【管理運営】管理運営ルール2・3 ～諸室の管理運営ルール～ *第2回設計案をうけ、管理運営ルールを考える。
第7回 12月14日	*ホール、ギャラリー、スタジオなどの施設ごとに管理運営ルールを考える。
12月 (未定)	第4回 整備推進委員会 管理運営分科会 *ワーキング5.6.7のまとめ
第8回 1月18日	【管理運営】管理運営計画のまとめ *管理運営実施計画策定にむけて、これまでのまとめ。
2月 (未定)	○ 基本設計(最終案)発表 ○ 市民説明会
3月 (未定)	○ 基本設計決定 ○ 管理運営実施計画策定 ○ シンポジウムの開催(予定)

